

平成24年度未来経営戦略推進経費  
(経営基盤強化に貢献する先進的取組み)採択事業

# 武蔵野大学のブランド展開

～PDCAサイクルによる  
出口目標達成のための教育の仕組みづくり～

武蔵野大学

# 本取組みの概要

## 武蔵野大学のブランド展開

### ①学部学科増設(H10～)

単科大学から8学部10学科の総合大学に変貌

### ②男女共学化(H16)

- ・大学の規模が大きくなる。
- ・教育内容の多様化

### <課題>

- ①大学としてのまとまりの必要性
- ②大学全体の教育指針の具現化する必要性



武蔵野大学  
MUSASHINO UNIVERSITY

H15 ブランド構築プロジェクト  
・基本目標、ブランドマークを一新

### H17～ ブランド展開プロジェクト

・学科ごとの出口目標・取組みの策定

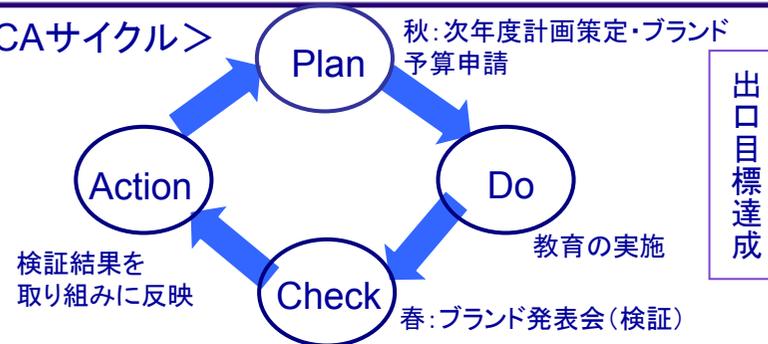
H21～ 全学科スタート、新5カ年計画(H21-25)スタート

H23～ 教養教育部、教学事務部門スタート



武蔵野大学  
MUSASHINO UNIVERSITY

### <PDCAサイクル>



PDCAサイクルを経て、出口目標を達成できる教育の仕組みを導入・定着させることができる。

### <内容>

ブランドマップのイメージ

大学基本目標: 無数の縁からなる自己と社会に目覚め(Awakening)、共創できる実践力を鍛え(Link)、次代を切り拓く(Growth)

学科目標: ○○の人材を育成する。

学科の出口目標(ミッション) 就職率○%、  
 (ターゲット) TOEIC○点  
 (プラクティス) 対策講座○人  
 (ラーニング) 目標設定○%

下位目標達成により上位目標が達成される。

※バランススコアカードを利用

### <成果>

・国家試験合格率の上昇  
 (例:H24薬剤師国家試験全国3位、看護師国家試験合格率100%、H23社会福祉士国家試験合格率(私大)3年連続1位等)

・出口目標達成につながる教育の仕組みを定着化

<大学・学科ブランドの確立>

↓  
 ・受験者数増(5年連続) <社会的評価>

# 1. 取組みを実施する背景 (1)学部・学科の増設、男女共学化

～H9年・・・文学部のみの女子大学

H10年・・・現代社会学部を設置 (H20年に政治経済学部に変更)

H11年・・・人間関係学部を設置 (H20年に人間科学部に変更)

H15年・・・「武蔵野女子大学」から「武蔵野大学」へ名称変更

H16年・・・薬学部を設置

男女共学化

H18年・・・看護学部を設置

H21年・・・環境学部を設置

H23年・・・グローバル・コミュニケーション学部、教育学部を設置

H24年・・・有明キャンパス開設

(2キャンパス制に)

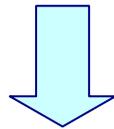


2キャンパス、8学部10学科の総合大学に変貌 H25現在

# 1. 取組みを実施する背景 (2)ブランド構築プロジェクト

H10～

- ・大学の規模が急激に拡大
- ・教育内容の多様化(1学部⇒8学部)

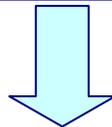


課題

① 建学の精神等の共有など、  
大学としてのまとまりの必要性。

課題

② 大学全体の教育指針を  
具現化する必要性。



H15 **ブランド構築プロジェクト**

- ・基本目標、ブランドマークを一新

<基本目標>

武蔵野大学は、無数の縁からなる自己と社会に目覚め(Awakening)、共創できる実践力を鍛え(Link)、次代を切り拓く(Growth)

<ブランドマーク>



武蔵野大学  
MUSASHINO UNIVERSITY

<ブランドステートメント>

**Linking Thinking**

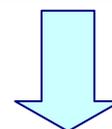
# 1. 取組みを実施する背景 (3)ブランド展開プロジェクト

## 課題

① 建学の精神等の共有など、  
大学としてのまとまりの必要性。

## 課題

② 大学全体の教育指針を  
具現化する必要性。



H17～ **ブランド展開プロジェクト**

・学科ごとの出口目標・取組みの策定

H21～ 全学科スタート

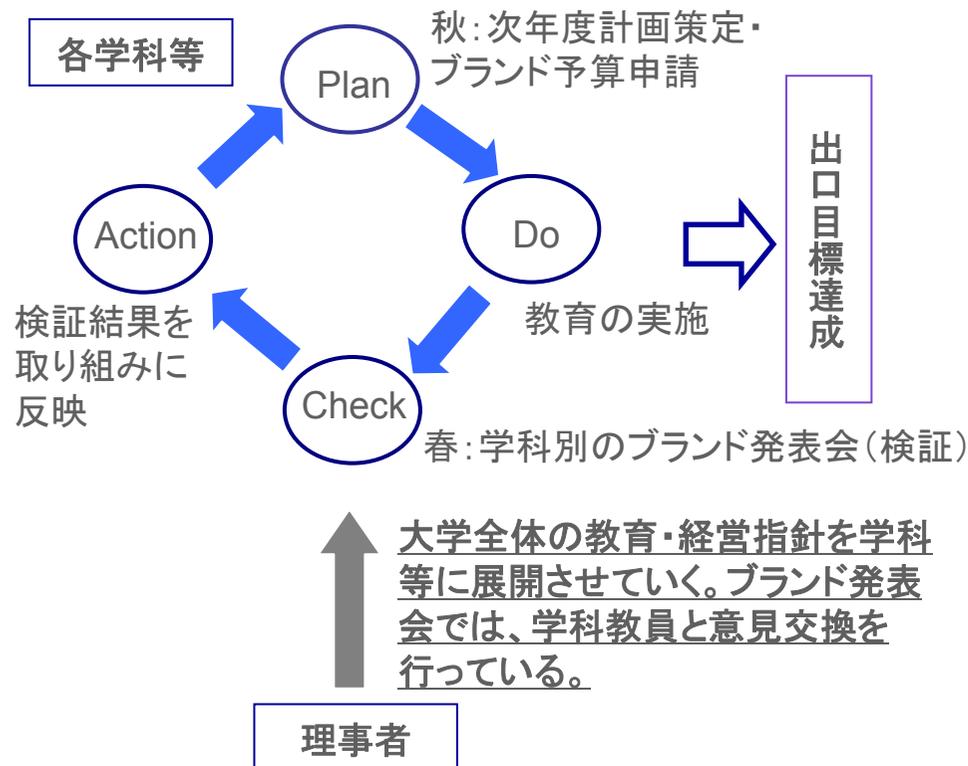
新5カ年計画(H21-25)スタート

H23～ 教養教育部、教学事務部門スタート

## 2. 実施体制・取組み・成果

### (1) PDCAサイクルとブランドマップ

#### PDCAサイクル



PDCAサイクルにより、出口目標を達成できる教育の仕組みを導入・定着させることができる。

#### ブランドマップ

大学基本目標: 無数の縁からなる自己と社会に目覚め(Awakening)、共創できる実践力を鍛え(Link)、次代を切り拓く(Growth)

学科目標: ○○の人材を育成する。

学科の出口目標(ミッション) 就職率○%、

(ターゲット) TOEIC○点○人

(プラクティス) 対策講座○人

(ラーニング) 目標設定○%

下位目標達成により上位目標が達成される。

- ・バランススコアカードをアレンジして利用。1枚のマップで表せ、学内での共有が容易。
- ・取組み内容や担当者名、実績値などは、別にアクションシートを用意している。

## 2. 実施体制・取組み・成果 (2) 成果

### ① 出口目標の達成

特に国家試験で好成績をおさめる。

- (例) ・社会福祉士国家試験合格率(私大)3年連続1位
- ・H24薬剤師国家試験全国3位
  - ・看護師国家試験合格率100% 等

### ② 出口目標達成につながる教育の仕組みが徐々に定着化

<大学・学科ブランドの確立>



<社会的評価>

- ・受験者数増(5年連続)



### 3. 今後の取組みの展開

- ・国家試験合格を目指す学科では好結果が出ているが、さらに、企業就職を目指す学科においても成功事例を増やしていく必要がある。
- ・そのためには、PDCAサイクルで効果を高めていく必要がある。

#### <平成23年度より>

- ・教養教育部で、専門教育の橋渡しとなる効果的な教育方法を定着させるために、ブランド展開をスタート。
- ・教学事務部門でも、学科の出口目標を達成するサポート体制の強化を図るために、ブランド展開をスタート。

## 4. 取組みにより見込まれる効果

### ① 出口目標(人材像)の達成とその教育方法の仕組み化

⇒ 学生募集に好影響



### ② 経営基盤の強化に寄与

- 成果がより上がると考えられる取組みに対して、**重点的に予算配分**することができ、限られたリソースを効率的に活用できる。
- 大学全体の**教育・経営指針を学科等の教育に展開**させることができ、理事者と教員、事務職員が教育の仕組みや内容の進捗について共有できる。

## 5. 本取組みが他大学のモデルとなりうる点

- ①大学全体の教育・経営指針を学科の教育に展開することができ、理事者と学科教員が対話形式で継続的に実践できる仕組みである。
- ②より効果の上がる取組みを出口目標の達成状況から毎年検証することができ、メリハリのきいた予算配分が可能である。
- ③バランススコアカードを用いた経営管理手法は、1枚のマップにまとめられて全体で共有しやすく、教育理念と実際の教育プログラムを関連づけるのに有効である。

## 6. 他大学で導入する際の留意事項

### ①理事者の信念・リーダーシップが重要。

- ……緊張感がなくなれば、早晩、形骸化する。  
大学の教育・経営指針と目標等を合致させる。

### ②ミッションと取組みは、できる限りシンプルにわかりやすくする。

- ……総花的な目標設定では、達成すべきミッションが不明確になる。上下の目標の整合性が大切。

### ③粘り強くPDCAサイクルをまわす必要がある。

- ……具体的なデータを使って、毎年、検証し、改善を図る必要がある。ミッションを達成する仕組みを作ることを意識する。